

体育分野における授業の効果的な指導法 指導形態や場の工夫

I 主題設定の理由

中学保健体育部会では、「体育分野における授業の効果的な指導法」に視点をあてる中で、生徒の実態に応じた学習形態や生徒が集団活動を通じてコミュニケーション能力や言語活動を育成することや、授業内容の工夫・改善をすることにより生徒達により理解しやすく、基礎・基本の定着を図ること。そして、与えられた環境の中、より有効な場を提供することもより質の高い授業の展開が可能と考える。

本年度も「指導形態や場の工夫」を研究の柱に、各校で課題を設定し、その解決に向けて本年度も継続して研究することが望ましいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して指導形態と場の工夫を考える。
- (2) 先進校の実践（資料）や各校での実践を通して情報交換を行い、研究していく。

2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。
〔1月「保健」（医療機関と医薬品の有効利用）山梨北中学校 大澤祐子 教諭〕
〔2月「球技」（ハンドボール・ゴール型）山梨北中学校 大澤祐子 教諭〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

3 授業実践：1

- (1) 単元名 「保健」（医療機関と医薬品の有効利用）中学3年生
- (2) 授業者 山梨北中学校 大澤祐子 教諭
- (3) 指導構想

「医薬品の正しい使い方について理解すること」

「視聴覚教材を用いた解説、実験等の具体例、学校薬剤師の連携・活用を導入した実践的研究」

「保健体育科教諭と学校薬剤師のそれぞれの専門性を生かし、生徒の科学的理解を促す」

(4) 学習過程での工夫

- ①視聴覚機器の活用（パワーポイント活用）
- ②ワークシートの工夫
- ③グループ学習の工夫（教材（実際の薬の箱）、ワークシートの記入時間設定）
- ④「学校薬剤師」との連携
中心となる専門的な内容を学校薬剤師が行い、その後再び教諭が難しかった部分を生徒の日常と結び付けて説明を加える。
- ⑤医薬品の飲み方に関する実験（水、医薬品（鉄剤）、お茶の成分（タンニン）の反応を観察する。）

授業実践：2

(1) 単元名 球技「ハンドボール」(中学1年生)

(2) 授業者 山梨北中学校 大澤祐子 教諭

(3) 授業構想

- ・チームやルールになれながら，初歩的な攻め方・守り方でゲームを楽しむ。
- ・個人の技能の課題解決とチームとしての課題解決の両面から授業を進めていく。
- ・互いに観察し，助言できるようにする。(言語活動)

(4) 指導形態の工夫

- ・授業の流れを「目標確認－基本・課題練習－ゲーム－振り返り(評価)」とする。
- ・教師主導の学習や生徒主体の課題解決学習を入れ，効果的な練習方法を提示し，学習させ，個人及びチーム力を伸ばしていけるよう工夫する。
- ・中学体育実技の教科書の活用，ハンドボール部による基本動作の実技演習を取り入れ，運動のイメージを図る。
- ・技能習得のための練習では簡易化したゲームで，工夫したゲームにより特性に触れさせたい。

(5) 場の設定の工夫

- ・運動量を確保するためにハンドコート2面を作り，生徒がフルに活動できる環境をつくる。
- ・パスコースの入り方，ミスの少ないキャッチをするための動きのイメージをつくるために，ラインやマーカーを使い動きのイメージをつくる。
- ・ボールをしっかり握れるように小学生用のゴムハンドボールを使用する。
- ・狙ってシュートが行えるようにゴールの四つ角に目印を示す。
- ・技能の段階に応じて，コートの広さ，ルール等を工夫して取り組ませる。

Ⅲ 成果と課題

体育分野では，授業実践を通し，学校の規模に応じた独自の指導方法や教材の使用，施設の利用など，特色ある授業形態を学ぶことができ，とても充実した研究会になった。各校がそれぞれの場の工夫と，さらに学習資料を有効的に活用することで生徒達に基礎基本の定着や，課題解決へ向けての手だてや，運動に積極的に取り組む姿勢が学べたと考える。

保健分野では，平成24年4月1日から全面実施となった新たな単元であるため，授業展開にもたくさんの意見や指導助言が出され，今後につながる充実した研究会になった。特に，保健分野で求められている視聴覚教材を用いた解説や実験等の具体例や学校薬剤師の連携・活用を導入したことにより，保健体育科教諭と学校薬剤師のそれぞれの専門性が活かされ，生徒の科学的理解を促す上で効果的であったと思われる。また，授業展開の中で身近な市販薬の画像からはじめ，生徒達の日常を関連づけて説明したことにより，身近な問題として受け止めることができ，意識化を図ることができたと考えられる。保健分野の授業実践を通し，互いに学びあいながら研究を進め，生徒の発達段階に配慮し，その単元が求める教育内容の充実を図ることが今後も必要である。今後も各校より資料あるいは実践を持ち寄り，指導・研究に役立てていきたい。

来年度は，学習過程での手段でもある言語活動にも視野を広げ，保健体育の授業を通しての人間関係作りやコミュニケーション能力の育成が効率よくできる授業形態や場の工夫について研究を深めていきたい。

〔部長 大澤祐子〕